

グローバル株式トップフォーカス

設 定 日 : 2016年3月31日

償 還 日 : 無期限

決 算 日 : 原則、毎年3月15日

収 益 分 配 : 決算日毎

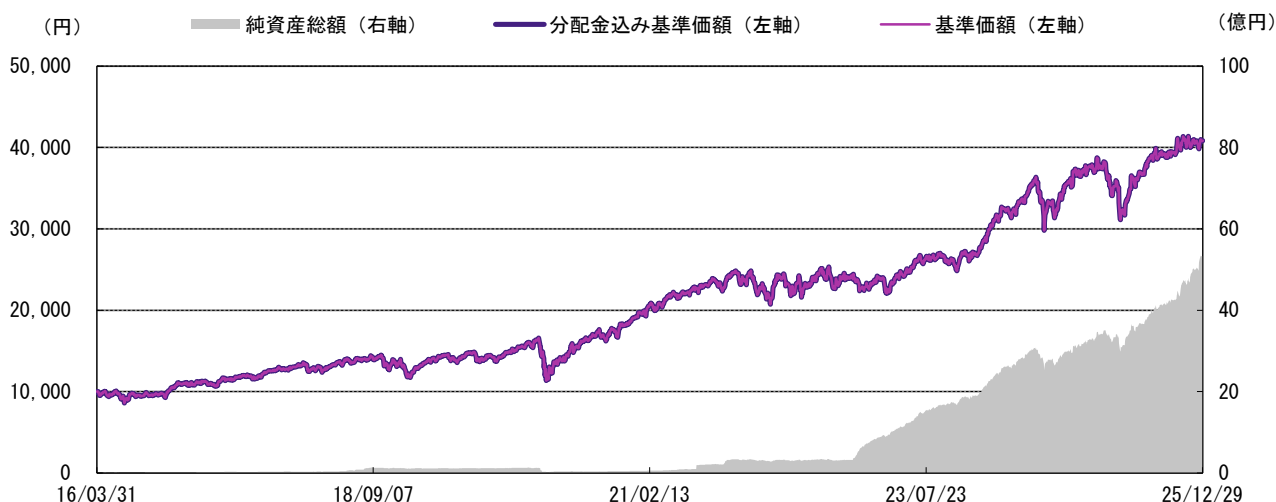
基 準 価 額 : 40,839円

純 資 産 総 額 : 53.34億円

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運 用 実 績

＜基準価額の推移＞



※分配金込み基準価額の推移は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。
 ※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。

＜基準価額の騰落率＞

1 カ月	3 カ月	6 カ月	1 年	3 年	設定来
-0.07%	3.87%	7.73%	8.20%	78.39%	308.39%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

＜分配金実績（税引前）＞

21・3・15	22・3・15	23・3・15	24・3・15	25・3・17
0円	0円	0円	0円	0円

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

＜資産構成比率＞

アモーヴァ・グローバル・エクイティ・ファンド クラスP	97.4%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



アモーヴァ・グローバル・エクイティ・ファンド クラスP

※アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドより提供された情報です。

※以下は当外国投資信託における数値です。比率は当外国投資信託の純資産総額比です。

※「組入上位10銘柄」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。

<資産構成比>

株式	99.2%
現金その他	0.8%

<組入上位10カ国>

アメリカ	64.4%
日本	6.7%
イギリス	4.8%
中国	4.6%
イタリア	3.0%
スペイン	2.7%
インド	2.7%
シンガポール	2.5%
フランス	2.2%
ドイツ	2.0%

<組入上位10通貨>

アメリカドル	68.7%
ユーロ	11.6%
日本円	6.6%
香港ドル	3.6%
インドルピー	2.7%
シンガポールドル	2.5%
イギリスポンド	2.4%
スウェーデンクローナ	1.0%
豪ドル	0.9%

<組入上位10業種>

金融	24.9%
情報技術	21.5%
一般消費財・サービス	16.4%
ヘルスケア	13.9%
資本財・サービス	12.1%
生活必需品	4.7%
コミュニケーション・サービス	3.9%
素材	1.9%

<規模別構成比率>

時価総額	比率
超大型株（500億米ドル以上）	71.2%
大型株（100億米ドル以上500億米ドル未満）	15.2%
中型株（20億米ドル以上100億米ドル未満）	12.9%
小型株（20億米ドル未満）	0.0%

<組入上位10銘柄>（組入銘柄数：44銘柄）

	銘柄	国名	業種	比率
1	エヌビディア	アメリカ	情報技術	6.6%
2	マイクロソフト	アメリカ	情報技術	6.3%
3	アマゾン・ドット・コム	アメリカ	一般消費財・サービス	5.3%
4	ブロードコム	アメリカ	情報技術	3.5%
5	インターザ・サンパオロ	イタリア	金融	3.0%
6	ソニーグループ	日本	一般消費財・サービス	2.9%
7	カイシャバンク	スペイン	金融	2.7%
8	HDFC銀行	インド	金融	2.7%
9	ネットフリックス	アメリカ	コミュニケーション・サービス	2.5%
10	DBSグループ・ホールディングス	シンガポール	金融	2.5%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額
は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みく
ださい。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資
料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

米国株式市場は、前月末と比べて上昇しました。米国の生成A I（人工知能）への過剰投資に対する警戒感の高まりや、米国のI S M製造業景況指数が市場予想を下回ったことなどが株価の下落要因となったものの、米国連邦準備制度理事会（F R B）が追加利下げを実施したことや、消費者物価指数（C P I）が市場予想を下回りインフレへの警戒感が緩和されたこと、一部ハイテク企業の決算が堅調となり生成A Iの関連需要が期待されたことなどから、株価は上昇しました。

欧州株式市場は、前月末と比べて総じて上昇しました。英国の月次G D P成長率が市場予想を下回ったことや、欧州中央銀行（E C B）が政策金利を据え置き、利下げ局面を終了する公算が大きいとみられたことなどが株価の重しとなったものの、英国の消費者物価指数（C P I）が市場予想を下回りイングランド銀行（B O E）が利下げを行なったことや、ドイツの鉱工業生産やZ E W景気期待指数が市場予想を上回ったことなどが支援材料となり、株価は総じて上昇しました。

12月の国内株式市場は、東証株価指数（T O P I X）が前月末比プラス0.90%、日経平均株価が同プラス0.17%となりました。日銀総裁の「利上げの是非を適切に判断したい」との発言を受けて日銀による利上げ期待が強まったことや、人工知能（A I）への過剰投資に対する警戒感から米国の関連株が一時売られたことなどが株価の重しとなった一方で、日銀が市場予想通り政策金利を引き上げたものの「利上げ幅が不十分」との見方から円安が進行したことや、東京都区部の消費者物価指数（C P I）が市場予想を下回ったこと、米国の経済指標が景気の底堅さを示す内容となったことや米国連邦準備制度理事会（F R B）が金融緩和の姿勢を示すなか、米国株式市場が上昇したことなどが株価の支援材料となり、国内株式市場は上昇しました。

東証33業種分類では、保険業、証券、商品先物取引業、石油・石炭製品などの21業種が上昇する一方、その他製品、電気・ガス業、鉱業などの12業種が下落しました。

◎運用概況

当月のグローバル株式市場は、前月末比で上昇しました。年末恒例のサンタクロース・ラリーがリスク選好を後押しし、景気敏感株が買われる展開となりました。これは素材セクターで顕著で、金価格の高騰に加えて銅価格なども上昇しました。金融セクターも好調で、米国の金利低下が銀行株などを支えました。これにより、カイシャバンク、インターザ・サンパオロ、ファースト・シチズンズ・バンクシェアーズなどの保有銘柄が恩恵を受けました。市場心理の改善は、これまで低迷していたディフェンシブセクターにも波及しました。

2025年の市場動向を特徴づけたのは、A I インフラ投資の急速な拡大でした。2024年に半導体やクラウド関連企業をめぐる市場の熱狂が始まり、それがデータセンター施設の建設に関連する資本財・サービス、公益事業、建設企業へと急激に広がりました。ハイパースケーラー企業は設備投資の計画の金額を引き上げており、2026年にかけて投資額がさらに拡大すると示唆されるなか、そうした設備投資とつながりがある株価が上昇し、比較的狭い範囲の高ベータ銘柄の株価が上昇しました。

長期的なバリュエーション規律に注力する投資家にとって、ファンダメンタルズではなくモメンタムやテーマ性に基づく市場環境は困難を極めました。米国では、不採算企業などが堅調に推移する一方で、安定した収益と強固なバランスシートを有する企業は出遅れました。クオリティ株は割高な評価プレミアムを抱えた状態で2025年に入り、その後相対的に大きく下落しました。当ファンドの当月の不振は、このようなスタイル動向に加えて、ネットフリックスが米メディア・エンターテインメント会社の主要事業買収の発表後に下落するなど、個別企業動向もマイナスに影響しました。

2025年の当ファンドの収益は、市場スタイルの動向、関税を巡る政策の不確実性、地政学的な展開、企業固有のM&Aなどが全てマイナスに影響しました。投資判断が目標を満たさなかった事例も認識しています。当ファンドではこれに対応すべく、投資プロセスの一部を精緻化しつつ、「フューチャー・クオリティ」企業を特定して投資するという一貫したプロセスを維持しています。

◎今後の見通し

当ファンドの投資哲学にとって好ましい環境が整いつつあると考えています。依然として不確実性は高く、ボラティリティは持続する可能性が高いものの、2025年にクオリティ株の低迷を招いた構造的要因は弱まりつつあり、一方で低クオリティの循環株や投機的銘柄を押し上げてきた条件はますます行き過ぎた状態にみえます。

2024年から2025年にかけてディフェンシブ株やクオリティ株から資金が流出しましたが、今後も同水準で続く可能性は低いとみています。クオリティ株とバリュー株の相対的なバリュエーションは、足元では歴史的な水準に収束しつつありますが、クオリティ株に回帰する兆候は明確ではありません。金融政策が安定し、セクター間で収益成長がより均等に分散されると予想されることから、2026年は銘柄選択が重要となると考えています。

2026年は2025年とは異なるダイナミクスを示すと予想されます。投資家がディフェンシブで安全性の高い企業からより循環的な企業へシフトさせる傾向は、勢いを失う可能性が高いとみられます。さらに、金利低下期待、景気減速、整合的なマクロ環境、インフレ圧力の緩和、セクター間でより均衡のとれた収益成長は、いずれもスタイル主導よりも銘柄選択を有利にすると考えられます。

A I 投資の波は、主要な設備投資企業にとって、フリーキャッシュフローや投下資本利益率（R O I C）に重大な影響を及ぼしており、そのような企業は結果として当ファンドの投資哲学である「フューチャー・クオリティ」の候補から外れることになりました。多くの場合、大手企業は今後もA I 設備投資に巨額を投じ続けると思われる。現代の巨大テック企業のビジネス命題は、A I を「磁石」として新規顧客を獲得し、既存顧客を維持する能力にかかっています。つまり、販売対象はA I モデルそのものではなく、これらの企業が提供する包括的な価値全体です。このような存続リスクと豊富な資金力の組み合わせが、A I への多額の投資が今後も続くことを示唆しています。そのため、当ファンドで保有するA I 関連銘柄の大半は、こうした投資の恩恵を受ける企業に集中しており、そこでは持続的な高キャッシュフロー収益が得られます。当ファンドの「フューチャー・クオリティ」のアプローチは、高いR O I Cと成長を継続的に実現できる企業に焦点を絞っています。2025年後半は失望の連続でしたが、2026年の基盤は当ファンドの投資哲学にとって好ましい環境を示唆しています。変動の激しい状況下にあっても、強靱な競争優位性を持ち、景気循環を通じて収益を複利的に増大させ、資本を効果的に配分する規律を備えた企業を見極めることに、引き続き注力していきます。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額
は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みく
ださい。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資
料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



ご参考情報

※「組入上位銘柄の銘柄概要」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。

※記載の見解等は、アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッド による作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

<組入上位10銘柄の銘柄概要>

1	エヌビディア
データセンターにおける人工知能処理専用の半導体や、テレビゲームや自動運転向け半導体を開発する大手企業。GPU、CPU、DPUと呼ばれる演算装置と関連ソフトウェアの組み合わせにより独占的な市場シェアを持つ。人工知能が普及する新時代で、データセンターへの投資競争から恩恵を受け、未来の経済構造を転換する非常に良い立場にある。	
2	マイクロソフト
世界最大規模のテクノロジー企業。商業用クラウドサービスの強化により、ソリューション・プロバイダーとしての有力なポジションを確立し、利益率、キャッシュフロー創出力を高めることに成功している。また、積極的な二酸化炭素排出量削減目標を通してESGを強化するとともに、プライバシーやデータ規制への対応においても業界をリードしている。	
3	アマゾン・ドット・コム
オンライン小売企業で、AWS事業を通じてクラウドでも主導的な地位。企業クラウド利用率はまだ低く、成長の余地。一方、雇用と設備投資のコスト規律を重視し始めており、コロナ関連での巨額投資の終焉と相まり、利益率上昇が期待される。GHG削減で他社をリードし、包装の削減を通じ、2025年までに再生可能エネルギー100%の運営を目指す。	
4	ブロードコム
IT分野の世界的大手で様々な半導体の設計・製造、企業向けやセキュリティ用ソフトウェアを手掛ける。半導体市場の安定的・長期的成長から恩恵を受け、高利益率ながら具体性のある人工知能関連売上を有し、配当利回りも魅力的である。同社の製品・サービスはイノベーションを支える重要な役割を果たしており、未来の経済への移行を促すものである。	
5	インテザ・サンパオロ
インテザ・サンパオロ（ISP）は、時価総額でイタリア最大の銀行。資産運用やウェルスマネジメント、手数料収入型ビジネスが収益の40%以上を占め、引受業務の改善に伴い、構造的に優れた収益モデルを有している。積極的なIT改革により、現在では60%以上のITインフラがクラウドへ移行し、サービス提供の向上、コスト削減、AI導入が実現されている。同社はガバナンス、人材育成、消費者の金融保護においても高い評価を受けており、複数のサステナビリティ評価機関から認定済み。	
6	ソニーグループ
テクノロジー・エンターテインメント企業。音楽、ゲーム、アニメ、CMOSセンサー等のプラットフォームとIP（知的財産）は、長期的な収益性の原動力である。同社は、クリエイティブな分野に注力し、資本集約度の低いビジネスを展開。また、独立取締役会および独立した主要委員会が過半数を占めるガバナンスの実践で、同業他社をリードしている。	
7	カいシャバンク
スペイン最大のリテール銀行。同社の多様な事業構成、規律あるリスクプロファイル、そして50億ユーロ規模のテクノロジー変革による継続的なコスト優位性を通じて、高い自己資本利益率（ROE）を維持できると考える。同社は1,000億ユーロ規模のサステナブルファイナンス計画を掲げ、金融包摂の取り組みや責任ある顧客対応を実施している。	
8	HDFC銀行
インド最大の民間銀行。技術導入、厳格な引き受け、強力なブランド力を背景に、長期的成長を維持している。最近では、合併を通して、成長分野である住宅ローン拡大させた。また、金融サービスが普及していない地域で積極的に活動しており、個人の富や健康、中小企業に貢献している。同行は、2031年までにカーボンニュートラル達成を目指している。	
9	ネットフリックス
190カ国に2億人以上の有料会員を持つ動画配信サービスの最大手。平均視聴時間が競合他社に比べて長く、コンテンツに対する評価も高い。パスワード共有禁止や広告付きプラン導入などの契約モデルの大幅な刷新に着手している。また、二酸化炭素排出量は参考ベンチマークと比較して低い水準にある。	
10	DBSグループ・ホールディングス
DBSは、シンガポールおよびアジア地域で展開する金融グループ。規律ある融資審査、保守的なバランスシート管理、資産運用の手数料収入増加で、10%台後半のROEを維持。デジタル化や慎重な資金調達構成が収益性を高めている。また、気候変動への取り組み、強固なガバナンス指標、またサステナブルファイナンスポートフォリオを有する。	

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。





世界の株式を投資対象として厳選投資を行ないます。

- 日本や新興国を含む世界の株式（DR（預託証券）を含みます。）を主な投資対象とし、投資スタイル（グロースやバリュー）、国・セクターなどにとらわれることなく、相対的に魅力があると判断される40～60程度の銘柄に厳選投資します。
- 高収益の実現・維持には、ESG（環境・社会・ガバナンス（企業統治））を考慮した経営が不可欠として、ESGの総合評価を重視した銘柄選択を行ないます。また、組入銘柄全体としての売上高当たり温室効果ガス排出量を、主要な世界株指数における水準の8割以下に抑えることをめざします。
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジは行ないません。



アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドが実質的な運用を担当します。

- 株式運用において実績を持つアモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドのグローバル株式運用チームが、当ファンドの主な投資対象である「アモーヴァ・グローバル・エクイティ・ファンド クラスP」の運用を行ないます。

当ファンドでは、事業に投じた資金に対して効率的に高い利益を生みだし、それを持続することができる企業を『フューチャー・クオリティ企業』と呼び、魅力的な投資対象と考えています。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

●当ファンドは「ESG投信」です

- ・当ファンドは、全ての組入銘柄の選定においてESGを主要な要素としており、アモーヴァ・アセットマネジメントが「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて定めた「ESG投信」です。
- ・独自のESG総合評価を行なうことを義務としているほか、ポートフォリオ全体としての温室効果ガス排出量の抑制を目標に掲げています。

※詳細は、投資信託説明書（交付目論見書）をご参照ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	無期限(2016年3月31日設定)
決算日	毎年3月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・ルクセンブルクの銀行休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し3.3%(税抜3%)以内 ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
--------	---

換金手数料

信託財産留保額

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し年率1.238%(税抜1.13%)程度が実質的な信託報酬となります。
------------------	--

信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.188%(税抜1.08%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.05%程度となります。

受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。

目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 www.amova-am.com 〔コールセンター〕 0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様
に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- ・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・新興国の株式は、先進国の株式に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- ・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

【流動性リスク】

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・新興国の株式は、先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

【信用リスク】

- ・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

【為替変動リスク】

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

【カントリー・リスク】

- ・投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

【ESG投資に関するリスク】

- ・ESG特性を重視して投資を行なうため、ファンドの基準価額の値動きは市場全体の値動きと異なる場合があります。その結果、ファンドの基準価額は大きく変動する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様へ「グローバル株式トップフォーカス」へのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・当ファンドの運用プロセスにて定める「GHG（温室効果ガス）排出量の抑制」に資する銘柄が著しく減少した場合などには、運用プロセス自体を見直すことがあります。その際、暫定的に運用プロセスを遵守できなくなる可能性や当ファンドが想定するパフォーマンスと異なる可能性があります。
- ・当ファンドの運用プロセスにおいてESG評価機関などから提供されるデータを活用する場合がありますが、当該データは投資対象となる企業の情報開示が不十分などの理由により完全性・即時性を確保できないことがあります。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は **アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社**
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○	○	○	
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社岩手銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第3号	○			
株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券） （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○		○	
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長（金商）第1号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	○	○	○	
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
m o o m o o証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3335号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。